

## 認知症高齢者 支援対策について

### 問

一・グループホーム、または認知症対応型通所介護の中で進行を抑える方法をとられているか。

二・認知症の症状を早く発見できる専門的な相談ができて体制を進めていく考えがあるか。

三・初期認知症の方々が共に頑張り合える共同の場所の設置の考えはどうか。

### 答

中村市長

伊予市でも、認知症対策は重要な課題として、伊予市高齢者保健福祉計画の中で、一、認知症の早期発見体制の構築、一・徘徊に対応できる地域支援ネットワークづくり、一、



佐川 秋夫 議員

初期認知症高齢者の支援活動という三つの大きな課題を盛り込んでいくが、認知症になっても尊厳を保持し、安心して暮らせるまちづくりを目指した施策に努めたい。

### 答

市民福祉部長

一・グループホームには、今年度より介護支援専門員の配置が義務づけられ、利用者の人格を尊重し、能力や過去の経験を生かした介護計画を立ててその人らしさを支援すること、認知症の進行を防いだり、問題行動が改善できたりという効果が期待されている。

認知症の方は、通所による人との交流で症状を改善し、進行を防ぐことが期待できる。

介護支援専門員が立てた介護計画をもとに、各事業所でさらにその方の能力に応じた個別計画を立て、本人のできることを尊重し、地域での暮らしを支援して、質の高いプラン作成等の指導をしたい。

二・多くの市民が認知症について正しい知識を持って、地域との連携により、認知症の高齢者を早期の段階から支援する体制の構築が重要である。

月一回、専門の医師による

認知症相談を実施しているが、来年度からは、地域包括支援センターを中心に、各集会所で、医師会と連携した認知症相談の体制づくりをしたい。

三・中山地域では早期の認知症の方を対象に、月一回認知症予防教室を実施している。

買い物に行ったり、なじみの料理をみんなで作ったりすることにより効果が見られている。今後も、地域の事業所と連携し、通所型介護予防事業やこういった教室も増やしたい。

認知症サポーターの育成や徘徊 SOS ネットワークの構築等、地区組織との連携を図り、認知症対策を推進したい。



認知症を知る講演会

## 唐川地区から大平地区への 農業集落排水施設接続 について

### 問

一・地域住民に少しでも理解が得られるような施策を考えたおられるのか。

二・処理場の濁り及び悪臭についての対応は

三・事故等でポンプの故障が生じた時、どのような対策をとられるのか。

四・関係する住民に被害を及ぼした場合の補償は

### 答

中村市長

一・唐川地区の污水整備計画は、農業集落排水事業としての国の採択を受けた事業採択条件が、現在約四六％の稼働率の大平処理場への污水導入であり、費用対効果等からも、唐川独自の污水処理場の施設は認められないということであった。これに基づく接続同意を得るため、平成十七年十月から大平地区の皆さんに説明会を開催したが、とりわけ終末処理場に近い大平地区の皆さんに配慮が足りなかったことを改めておわび申し上げたい。

現在、関係者の御協力を得て、解決の道筋がついたので、ないかと期待している。

四・住民に被害が発生した場合は、原因が市に存在するときは、市において、適正な補償をすることは当然である。

### 答

水道部長

二・濁り及び悪臭については、地元協議・施設調査を実施し、必要な改善策を講じたい。

大平処理場の処理能力には十分余裕があることから、放流水質の悪化の心配はないと判断している。

三・現在、停電・故障等の異常時には、維持管理業者への直接通報と同時に、市の担当課にも連絡される仕組みで、直ちに対応可能となっている。

また、ポンプは一カ所に二台設置し、一台故障しても残りの一台で対応が可能である。

ただ、停電時には発電機やバキューム車に対応しているが、非常時発電装置の導入も含め、的確な対応が求められることは承知をしている。

## その他の質問事項

・農業集落排水及び公共下水道の汚泥の減量化